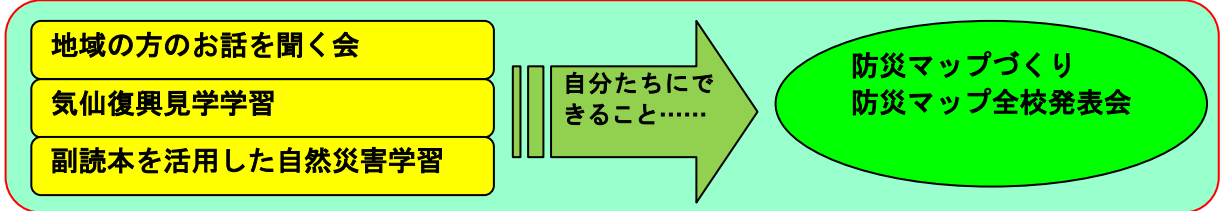


教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑭【復旧・復興への歩み】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習の時間

【 題 材 】



【 対 象 】

5・6年児童（※防災マップ全校発表会に関しては全校児童）

【 実践の概要・詳細 】

東日本大震災から3年、少しずつだが地域の復興・復旧が進んできている。そこで地域の産業に貢献し、その復興に力を注いでいる方々から話を聞いたり復興の様子を見学したりすることにより、自分たちにはできないかを考え、実践する活動を通して、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成する。



恋し浜ホタテ養殖 佐々木淳さん

1 地域の方のお話を聞く会(計4回)

①サンマ漁 国井大樹さん 及川恵介さん

5月15日、児童は大船渡港から出港するサンマ船の仕事とその魅力について伺い、興味深く聞き入った。国井さんは東京都出身でマグロ漁や海外協力隊など豊富な経験の持ち主。また、IT企業から転職したという及川さん。二人はサンマ漁の厳しさややりがいを語って下さった。自分の仕事に誇りをもって生きる姿に児童は目を輝かせた。

②恋し浜ホタテ養殖 佐々木淳さん

11月4日、綾里小石浜地区でホタテの養殖に従事している佐々木淳さんをお迎えして「恋し浜ホタテ」の由来やブランド化成功の秘訣、震災からの復興の歩みなどについてお話を伺った。「自分たちが生産したおいしいものをもっとたくさんの人に知ってもらいたい。それが将来の綾里にとって大切なことだと思う。」と力強く児童に語りかけた。



綾里自工 村上卓志さん

③綾里漁協組合長 佐々木靖男さん

11月7日、綾里漁協組合長、佐々木靖男さんが漁業の復興の様子について写真を交えながら語ってくださった。漁師の方々からの「1日でも早く漁を再開したい。」という言葉に勇気づけられ復興に邁進した佐々木さんの資料には「全壊・流失」の文字の横に「復旧・完成」の文字がたくさん載っており、漁師の方々のたくましさに児童は感動した。

④綾里自工 村上卓志さん

11月14日には、野球スポーツ少年団の監督でもある村上卓志さんから工場流失から再開までのお話を伺った。仕事道具の一切を失ったとき、周りから温かい支援を受けたことを例に挙げ、児童に思いやりと誠実な態度、人と人とのつながりを大事にする生き方の大切さを熱く語った。その思いは綾里の将来を担う児童にしっかりと伝わっていた。

(児童の感想より)  
村上卓志さんへ

綾里自工の被災する前と後のことについて、村上監督が学校に教えに来てくれました。村上さんは、作業する場所も道具もなくし、仕事を続けていくかどうかとても悩んだそうです。でも、そのようなとき、正三建設の社長が倉庫を貸してくれたり、友達が自分の道具をくれたりしたそうです。人にやさしくしていたから、他の人から助けられたのだと思います。村上さんの話を聞いて、ぼくも人へのやさしさをもって生活していきたいと思いました。

## 2 気仙復興見学学習

8月28日、「気仙復興見学学習」を行った。そして、4月に完成した大船渡魚市場や陸前高田市の大規模な造成作業の様子を見学した。児童は、住民が力を合わせ復旧・復興に向けて努力し続ける姿を知り、将来への希望を感じとった。

### 目で見て感じる復興への道

(児童の感想)大船渡市の魚市場へ行って見て、復興状況を見てわかったことは、一年間に4万t～6万tもの魚をとることです。特にその中でもサンマが多いそうです。タブレットで最新の情報を調べたり、入荷や入札の情報が大型モニターに表示されたりなどIT化システムで効率的に作業を進めており、全国からも注目を浴びているそうです。魚市場は震災前よりもがんばりをみせているのですごいです。



建設中の陸前高田市消防署

(児童の感想)今日は陸前高田市の復興の様子を見に行きました。いつもは知ることができなかった陸前高田市の様子がわかった気がしました。びっくりしたことは、人々のがんばりです。震災後は建物も何もかもなくなっていたのに、今ではコンビニや仮設だけ商店や市役所が建っていました。建設中の消防署や警察署もありました。元通りになるにはまだまだ時間がかかると思いますが、がんばってほしいなあと思いました。



新しくできた大型商業施設  
(陸前高田市)

## 3 副読本を活用した自然災害学習



「地域の方のお話を聞く会」「気仙復興見学学習」を行う一方、復興教育副読本を活用した授業も進められた。実践例は「日本の自然災害について調べよう」。児童は「日本が自然災害が最も多い先進国」だということを知った。復興のお話を聞き、地域を見学し、自分たちにできることは何かを考えた。そして安全でいきいきしたまちづくりのために自分たちの地域

を調べ、防災マップを作り、多くの人に知らせようということになった。

### 学びから発信へ

## 4 防災マップづくりと防災マップ全校発表会

<フィールドワーク>

5・6年生が地区毎に分かれ、地域を歩いて危険な場所を調べた。写真も撮り、一か所ずつマップに貼るシートを作成した。



<防災マップ全校発表会>  
5・6年生が全校児童に向けて地域の危険な場所について報告した。低学年からもたくさんの感想が述べられ、地域の安全についてみんなで確かめ合うことができた。



これまでの学習をまとめた模造紙を掲示し、地域の方にも読んでいただいた。



完成版 防災マップ

### 【まとめ】

<成果> 復興を目指す地域社会の中で、児童が地域に目を向け、自らが関わっていかこうとする態度を育てることは大切な指導内容である。その意味で、今年度「かかわる(地域の復旧・復興への歩み)」に視点を当てて実践することができ、とても意義があったと考える。

<課題> 教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を児童の実態に合わせ、効果的に指導していくための手立てを今後も探していきたい。